

ITU無線通信総会 (RA-97) に出席して

国際電気通信連合 (ITU) の無線通信部門会議として無線通信総会 (RA-97) が10月20日～24日、スイスのジュネーブで84カ国、11国際機関 (インテルサットなど) から約400名が参加して開催されました。無線通信総会は無線通信の技術的問題を討議する会合で、2年ごとに開催されます。日本からは郵政省の内海大臣官房審議官を団長に34名が参加し、NTT DoCoMoからは研究開発部から秦主幹研究員、設備部から橋本担当部長、報告者の3名が参加しました。

審議、ならびに各SGなどの議長および副議長の任命が行われました (表1)。

■勧告案の承認

57件の新規勧告と38件の改訂勧告が承認され、次会期の研究課題として399件の研究課題が承認されました (表2)。

■勧告のあり方

アプリケーションについて複数のシステムが記載されている勧告について、1つに限定すべきとの意見が欧州より出されたが、あるアプリケーションを実現手段として、複数の方法や手段がある場合、要求に応じてそれから

会議状況

会合は、今会期 (1995年～1997年) 中における各研究委員会 (SG:Study Group) の活動報告およびこれらの報告の中の勧告案の審議、研究課題の審議、無線通信部門 (ITU-R) の組織および作業方法の見直し、来研究会期 (1997年～1999年) の作業計画などの

まえだ 前田
ゆたか 穰

表1 ITU-Rの研究委員会構成

研究委員会	主な所掌事項	議長	副議長
SG-1	周波数管理、スプリアス	Mr.Mayher (アメリカ)	Mr.Jeacock (イギリス) Mr.Kisrawi (シリア) Mr.Pavliouk (ロシア)
SG-3	電波伝搬	Mr.Cole (オーストラリア)	Mr.Arbesser-Rastburg (ESA:欧州宇宙機構) Mr.Rogers (カナダ)
SG-4	固定衛星業務	伊藤氏 (日本)	Mr.Fortes (ブラジル) Mrs.Rawat (カナダ) Mr.Reed (イギリス) Mr.Sesena Navarro (スペイン)
SG-7	宇宙・科学業務	Mr.Taylor (アメリカ)	Mr.De Jong (オランダ) Mr.Meens (フランス) Mr.Whiteoak (オーストラリア)
SG-8	移動、移動衛星業務	Mr.George (ドイツ)	Mr.Al-Darrab (サウジアラビア) 水池氏 (日本) Mr.Swanson (アメリカ) Mr.Villanyi (ハンガリー)
SG-9	固定業務	室谷氏 (日本)	Mr.Hurt (アメリカ) Mr.Minkin (ロシア)
SG-10	音声放送業務	Mr.Magenta (イタリア)	Mr.Joshi (インド) Mr.Karpenko (ウクライナ) Mr.Kussmann (ドイツ) Mr.Olson (アメリカ)
SG-11	TV放送業務	Mr.Krivochev (ロシア)	西澤氏 (日本) Mr.Zeitoun (カナダ)

表2 承認勧告数および次会期の研究課題数

研究委員会	新規勧告	改訂勧告	次会期の研究課題
SG-1	1	5	31
SG-3	—	—	24
SG-4	4	—	64
SG-7	11	7	49
SG-8	13	12	70
SG-9	1	—	48
SG-10	6	3	34
SG-11	10	8	79
JWP10-11R/S	11	3	

選択する必要があるため複数の方法や手続きを容認することとなりました。しかし、複数のシステムが記載されている勧告は、そのシステムについての客観的評価を記載することが望ましいとの表現が付け加えられました。

■ ITU-RからITU-Tへの課題の移管について

以前より通信網全体に関する標準化研究についてITU-Tで一元的に行うべきとの意見が作業計画などの議論を行う両組織のアドバイザー・グループ (TSAG, RAG) などで議論されて

おり、NW系の課題はITU-Tで、無線伝送に関する課題はITU-Rで行うことで合意されていました。ITU-T側ではその後も一元的に行うべきとの意見が出ており、今回のRAで英国から大幅にITU-Rの課題をITU-Tに移管する提案が行われました。これに対し、日本、米国、カナダ、ロシアなどは、無線方式の標準化は周波数の有効利用、他業務との共用など周波数割り当てに関する議論と切り離せないとの反対を行い、移管については各国の合意が取れず否決されました。